

日本の組込み系開発におけるアーキテクト ～アーキテクトは何を解決するか～

■主 催：ソフトウェア事業委員会／ソフトウェア事業基盤専門委員会

■担当部署：インダストリ・システム部

■参加者数：約110名

概 要

日本の組込み系ソフトウェア開発の強みは、擦り合わせによる高品質開発にあると言われていたますが、大規模化・複雑化・短納期化・多機種化の潮流の中で、国際競争力を今後も維持していくことが難しくなっています。

このような状況への対処として、アーキテクチャ設計の強化が注目されており、そのためにアーキテクトが必要であると言われております。

今回のワークショップでは、慶應義塾大学／白坂成功准教授の基調講演を皮切りに、富士通／保土原行彦氏とセイコーエプソン／萩原豊隆氏によるアーキテクトの事例講演を頂き、最後に“全員参加104人ワークショップ：徹底議論！アーキテクトが解決すること”と銘打った討論セッションを実施し、参加者全員による活発な議論が行われました。



プログラム

○開会の挨拶

ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について

JEITA ソフトウェア事業基盤専門委員会 委員長 五味 弘 氏

○基調講演

アーキテクト～アーキテクトは何ができるのか？～

慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科 准教授 白坂成功 氏

○事例講演1

ソフトウェアアーキテクチャ開発とは

富士通(株) 共通開発本部 第一ソフトウェア開発統括部 保土原行彦 氏

○事例講演2

アーキテクチャの定義から読み解く、アーキテクトに大切な3つのこと
～ソフトウェアの過去と未来、そして現在を作る～

セイコーエプソン(株) 機器ソフトウェア品質・生産技術部 萩原豊隆 氏

○全員参加型104人ワークショップ

徹底議論！アーキテクトが解決すること